

じやど新聞

JADDO 第1号
1993年 6月 20日 新

JADDO
アジアのこども達を援助する会

事務局:〒895 鹿児島県 川内市 神野町 11-20
若松記念病院となり 寿泉堂薬局
TEL. 0996-20-1402

JADDO設立の経過

1992年12月に初めてラオスを訪れました。ラオスに出張している夫(帖佐 徹)を訪ねての事でした。

たいへん貧しい国だと聞いてはいましたが、想像以上に貧しいでした。一人当りGNPが1990年に200ドルだったそうですが、国が貧しいとは、こういう事かと町の中を歩きながら思いました。ことばであらわすのは難しく詳しくは後で述べるとして一部を除き首都の道路でさえ未舗装で側溝は無く、牛とやぎとにわとりがうろうろしているのです。

こども達のにぎやかな声につられて行って見た所が小学校でした。木でできた建物には違いないのですが屋根と壁だけです。窓は木の扉をあけて光を取り入れてあります。電気はありません。水道もそしてトイレもありません。授業の開始はタイヤのホイールを吊してあってそれを石でたたいて報せませす。休み時間に木陰で おやつ用の小さい大根(蕪?)を売っていたおばさんが授業をはじめたのにも驚きました。先生の給料が安いので休み時間に生徒相手に商売をしているらしいのです。

授業が始まったのに教科書も鉛筆も出さずにいる子がいました。日本語は通じないのですが「黒板の問題を写して計算を始めないの?」と声をかけると先生がやって来て隣の子供の筆箱から鉛筆を出

して渡しました。さきほどの子はぼんやりしていたのではなく、鉛筆を持っていなかったのです。貸したほうの子供の筆箱の中にも 後には何も残っていませんでした。教室の中をよく見渡すとノートも持っていない子供も数人います。教科書は誰もひろげていませんでした。

びっくりして自分のノートを破って渡しながら考えました。その時に数冊のノートと教本の鉛筆があればクラス全員がノートを使えたのです。全部の生徒にノートと鉛筆を配ることはできなくても持っていない子供たちに渡すことはできるのではないのでしょうか。できる事を、とにかく始めようと思いました。

さっそく翌週、学校は違いましたが校舎の補修用に1000ドル寄付しました。とても喜んでもらい新聞に掲載されテレビでも放映されました。これから2年間の夫の滞在中にときどき小学校を見にいこうと思いながら帰国しました。

帰国後、若松記念病院の職員にラオスの小学校の話をしたところラオスに持って行ってとノートと鉛筆が集まりました。そこでラオスへの援助は個人ではなくグループからのものにしよう。きちんとした組織にしなければと考えました。こうしてアジアのこども達を援助する会ができました。



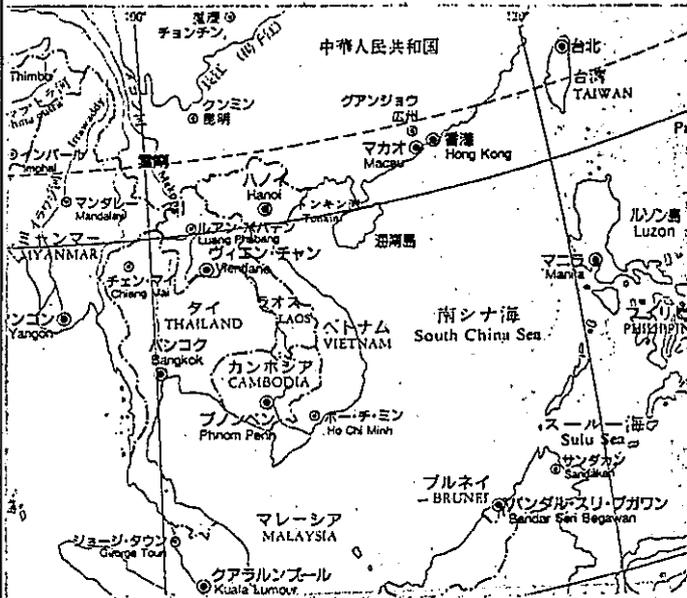
タラート村小学校の児童達

初めて私が行った小学校はタラート村小学校でした。タラート村で3日間すごしましたが毎日小学校に行き、子供たちも昼休みに私のいるゲストハウスまで遊びにきてくれました。ゲストハウス前で写した写真です。

タラート村はビエンチャン市外にあります。外国人はビエンチャン市外に出る時にはラオス国の許可をもらう必要があります。

残念なことにタラート村にもう一度行くことができませんでした。

ラオス? どこにあるの? どんな国?



ラオスのデータ

国名 ラオス人民民主共和国
 Lao People's Democratic Republic
 人口 430万人 (1992年)
 面積 23.7万km² (本州とほぼ同じ)
 首都 ビエンチャン (人口12万人1984年)
 政体 人民民主共和制 元首 スファヌボン大統領
 (最高人民評議会議長) 首相 カイソン・P (ラオス人民革命党) 政党 ラオス人民革命党 (共産党)
 言語 ラオス語
 宗教 仏教 (90%)
 一人当たりGNP 200\$ (1992年)
 耕作可能地 4%
 産業別労働比率 農業85% 工業6%
 平均寿命 男50歳 女52歳
 5歳以下の死亡率 160/1000

ホンケ村小学校へ校舎補修費を援助

1992年12月21日にホンケ村小学校に1000ドルの寄付をしました。左の新聞記事に (Dr. MISHIKO CHOSA) (Dr. TORU CHOSA) 1000 の文字が読み取れます。ビエンチャンマイ (ビエンチャンニュース) という国営新聞の4面しかない新聞の1面の真ん中に掲載されました。発行部数は2万部未満です。

ども素人ばかりだったので芯を入れずに長いレンガの壁をつくってしまっただけです。中は6部屋に仕切っているのですが、薄いベニヤ板の仕切りですから支えになりません。このままではとても危険だが資金がもう無い。セメントを買う資金を援助してほしいと頼まれました。

ホンケ村小学校への寄付について報告しましょう。その前に村という呼び名について説明します。

ラオスでは村の集合が地区になり地区の集合が市になっています。ですから村というのが日本の市町村の村ではなくて大小路、向田、高江などのような公民館単位を村と呼んでいます。

ラオスのこどもたちに援助をしたいが何をしてほしいか? と友人の Dr. ソムサナに相談したところ、このホンケ村小学校を紹介されました。

ホンケ村小学校は町の賑やかさと田園のさかひにあります。ちょうど昔の平佐西小学校みたいに片方は住宅街に面し、ちょっと行けばにぎやかな町でもう片方には広いたんぼが青々と拡がっています。

たんぼを2区画埋め立てて校舎が1棟建ててありました。1年生から5年生まで (ラオスの小学校は5年制) 1クラスずつ5つの教室と職員室が1部屋あり、外観は赤レンガでとてもきれいなのですが、さわると壁がユラユラとたわみます。生徒の父母が金を出してレンガやセメントを買い自分たちでレンガを積み上げて校舎を建てたけれ

Dr. ソムサナの計らいで寄付に際し授与式が行なわれました。1000ドルの寄付で日本なら校長室でお茶をいただくくらいでしょうがホンケ村小学校では大騒ぎでした。村長、地区の教育委員会、軍人、ラオス婦人同盟、PTA役員など村の主だった大人は皆集まり代表の子供達が共産主義のあの赤いネッカチーフを巻いて待っていてくれました。

教育委員会、PTA役員等の話の後でDr. ソムサナの通訳で私も話をしました。寄付金を渡し私は大きな花束を子供達からもらいました。その後ペプシとお茶菓子が皆に振舞われ式典は終了しました。

この事は左記のように新聞に掲載されましたが、1日に1時間しか放送しない国営テレビでも放送されました。国に2万台くらいテレビがあるそうですがもっぱらタイの放送を観ているそうですから広報力は小さいです。

今後、他の小学校の校舎補修や文房具の供与それにこどもたちへの公衆衛生の基礎知識の普及を考えながら援助を続けていこうと考えています。どうぞよろしくご協力ください。

**ຈັດແກ້ບຸກຄົນໃນ
ລາກຊາວບ້ານຮ່ອງແກ**

ໂດຍຜ່ານໜັງສືພົວພັນ
 ຈົນໃຫມ່ ໃນວັນທີ 21 ທັນວາ
 ສາມມາຍ ປະທາຍຸສະນາຄົມ
 ພັກຮຽນ ພອມດວຍພິມປະ
 ຊາຊົນລະຫວານນອຍ ຫຍາມ
 ຮອງແກ ເມືອງໄຊເຈດຕຽກຳ
 ພຽງນະຄອນວຽງຈັນ ໄດສະ
 ພຽງຄວາມຂອບໃຈອັນ ຈິງໃຈ
 ມາຍັງທາມ ດຣ. ມາງມິໂກະ
 ໄຊຈາ (Dr. MISHIKO CHOSA)
 ພະທາມ ດຣ. ໂຕຣ ໄຊຈາ
 (Dr. TORU CHOSA) ເຊື່ອ
 ຈາມອົງການໄຊທາປະຈຳໂຄງ
 ການສັກຢາກັມພະຍາດ ພຽງ
 ຊາດ ທີ່ໄດສະລະຊັບສວນຕົວ
 ຈຳນວນ 1.000 (ໜຶ່ງພັນ)
 ໂດລາສະຫະລັດ ພອມລິມັບທນ
 ສິບຕຸ້ກສາງໂຮງຮຽນປະຖົມສົມ
 ບູນບາມຮອງແກພະໃນ ໂອ
 ການ ອ່ອວຍພອມ ໄຫທາມ
 ພອມດວຍຄອບຄົວ ຈົນ ພັກ
 ຄວາຍສາສຸກຕະຫລອດປີໃຫມ່
 ສາກົນ 1993 ມີ.